

イルカ通信

隔月 1 回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

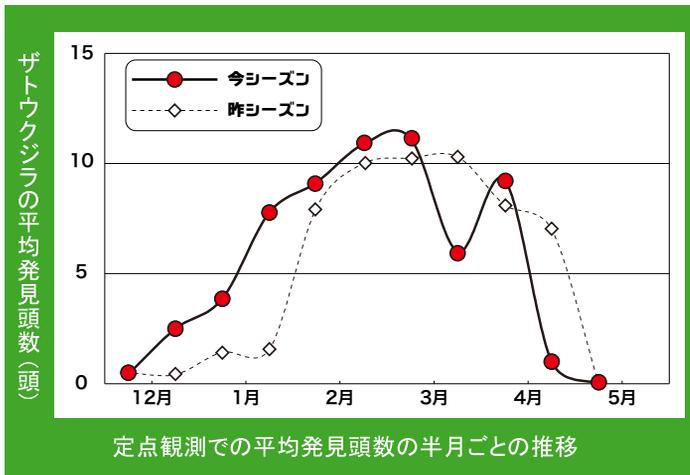
2012年6月1日 NO. 48

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「今年のザトウ模様」

小笠原のホエールウォッチングの目玉であるザトウクジラ。今回は、毎年実施しているウェザーステーションからの定点観測結果をお伝えします。



上のグラフは、定点観測でのザトウクジラの平均発見頭数を示したものです。今シーズンのザトウクジラは、昨年の11月10日に初確認されました。今シーズンの特徴として、昨シーズンよりもクジラの見られる時期が早かったことが挙げられます。また3月には一度、発見頭数が減る時期が認められましたが、4月に入るとまた発見頭数が増加する結果となりました。このようにベストシーズンの時期に、一度クジラの見られる頭数が減るとい現象は良く聞く話ですが、その要因はまだ分かっていません。

最近では三陸沖などでの発見情報が多いので、ほとんどの個体が北上したかもしれませんが、もし6月に入っても、小笠原近海でザトウクジラを発見した場合は、OWAまでお知らせください。



「長崎のミナミハンドウイルカ」

佐世保市の九十九島湾内で4月に目撃されたイルカが、南に約200キロ離れた鹿児島・長島海峡から移動してきたことが、長崎大などの研究グループの調査で分かりました。そのイルカとは小笠原でもお馴染みの「ミナミハンドウイルカ」で、昨年の秋まで10年ほど長島沖で確認されていた個体だったようです。

ミナミハンドウイルカは、体長が最大約270センチ。九州で有数のイルカウォッチングスポットとして知られる熊本・天草沖に約200頭が生息していると推定されています。天草沖から南に約40キロ離れた八代湾口の長島海峡に2000年ごろからその一部の約30頭が定着し、研究グループはミナミハンドウイルカの個体識別や長期の観測を続け、昨年10月の調査でも長島海峡沖のイルカ群を確認したようです。

九十九島湾では4月8日に20~30頭のイルカの群れが確認され、九十九島水族館「海きらら」の職員の方が撮影した写真から、うち2頭が長島海峡のイルカと同一個体であることが判明。イルカはその後確認されておらず、5月に同海峡を調査した際にも見つかっていません。さてどこへ行ってしまったのでしょうか？

ここ小笠原のミナミハンドウイルカも伊豆島まで移動した例がありますが、定住性のイルカの移動を追跡できたのは、極めて珍しい事例です。その理由は環境の変化などが可能性として考えられていますが、詳細については分かっていません。地道に調査を続けていけば、いつか理由が分かるかもしれません。

